

## 本時のねらい

・児童の図工に対する苦手意識（想像したりイメージしたりすることが難しいなどの意見）がある児童に対し、Jamboard にみんなの意見を集約することで、その意見を参考に組み合わせることができる。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・インターネットを活用し、未来の日本の街の様子を調べる。  
・Jamboard を使い、それぞれが調べたことを集約し、活用する。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレット PC      ・Google Jamboard  
・大型モニター      ・Google フォーム

## 本時の展開

| 学習の流れ       | 主な学習活動と内容  | ICT 活用のポイント・工夫   |
|-------------|--|--|
| 導入<br>(8分)  | <p>○本単元の教材を知る。<br/>○Google フォームでのアンケート結果を伝え、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>みんなの意見を参考にして、書きたいものを決めよう</p> </div> | <p>・事前に図工の面白いところや苦手だと感じているところのアンケートを取った。</p>   |
| 展開<br>(30分) | <p>○タブレットを使用し、未来の日本の街について調べる。<br/>(新しく生まれるもの・今と変わらずありそうなもの・あってほしいものなど)<br/>○自分が調べた内容を Jamboard の付箋に書き込む。</p>   | <p>・インターネットだけでなく、本も用意し、様々な媒体で情報を収集できるようにする。<br/>・Jamboard では個人が書き込むことができる付箋を事前に準備しておく。(個人の学びを見取りやすい)</p> |
| まとめ<br>(7分) | <p>○Jamboard のみんなの意見を参考にして、自分が書きたいものをリストアップする。(決まったら、下描きを始める)</p>  | <p>・何を描いたら良いかわからず図工に苦手意識を持っている児童に対し、Jamboard を活用することで、全児童の様々なアイデアの中から描きたいものを決めることができる。</p>               |

## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子



「未来の街」について検索している様子



「そうぞう」して考えた自分の意見を付箋に書き込んでいる様子



クラスみんなで書いたアイデアを生かして、図工の下描きをしている様子

## 児童生徒の反応や変容

・普段の図工では何を描いていいかわからず、手が止まってしまう児童も意欲を持って下描きに取り組むことができた。  
・「～さんのアイデアを参考にした」「～さんのアイデアをきっかけに気づいたことがあった」など Jamboard ならではの学びの姿があった。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・3 4 人での共同編集なので、あらかじめそれぞれの付箋に出席番号を記入しておくことで、児童も作業しやすくなった。教員にとっては児童個々の学びも見取りやすくなった。  
・今回は事前にアンケートをとり、その課題解決「みんなの意見を参考にして、書きたいことを決めよう。」のために Jamboard を使用した。学習するにあたり、何の目的でそのアプリを使うのかを考えさせたり、指導したりすることが大切だと感じた。